

リベラル鈴鹿 板倉 操 議員

公共の建築物の事業手法について

(質問) 合川分団車庫待機所整備事業について公共の建築物で建設・リースが一体となった手法に違和感がある。この手法を選んだ経緯、また発注課が消防総務課で建築専門外の部署が品質確保に責任が持てるのか。ホームページの入札公告掲載場所で公告されていない。さらにプロポーザル方式で業者選定をし

ているが、この方式の適用ガイドラインを策定する必要があるのではないか。

(答弁) 地元消防団活動への影響を考慮し工期短縮と経費削減となるリース方式となった。一般競争入札の建築物は契約検査課で検査し品質を確保しているが、リース契約完了後に建築物の引き渡しを受ける場合、現在は、検査の対象外である。本案件を含め契約検査課の検査、公告掲載の体制及びプロポーザル方式の適用基準の整備などについて検討する。

その他の質問 ○生活困窮者自立支援制度について

公明党 船間 涼子 議員

災害の対応について

(質問) 頻発する災害に対応するため、本市の対策の強化が必要と考える。小中学校の窓ガラス飛散防止フィルムの設置、避難所となる学校体育館でのエアコンの整備や、外見では分かりにくい障がいのある方が援助や配慮を得やすくなるヘルプマークの配布。さらに、備蓄品として、お湯が不要で常温保存が可能

な乳児用液体ミルクの導入を求める。

(答弁) 窓ガラスの対応は、今後も国・県の交付金などを最大限活用し対策を講じる。体育館へのエアコン設置は困難であるが、代替策として災害時における避難所用電器資機材等の設置支援に関する協定の締結により、扇風機や電気ストーブなどの支援が可能となっている。ヘルプマークは10月から、障がい福祉課・健康づくり課・地区市民センター窓口で配布して普及に努める。液体ミルクは価格や保存期間などを考慮し導入を検討する。

公明党 池上 茂樹 議員

教育委員会の考え方について

(質問) 今、子どもたちが学校へ持っていくランドセルやカバンの重さが問題になっている。教科書協会刊行の2017年のデータによれば、主要教科のページ数は学習指導要領の改定などにより、10年で約35%増加している。ランドセル本体やノート、文具などの重さと合わせると、小学1年生でも平均3キロから4

キロを毎日背負うことになる。宿題などで自宅の学習に使う以外の教材については、学校に置くことができるよう、市内一律で置き勉強ができるものを統一すべきと考える。

(答弁) 学校によって使用する教材なども異なるため、市内一律に置いておける物を統一することは難しいが、今後の方針として、文部科学省の通知にのっとり、学校内で統一したり、各中学校区内の小学校在歩調をそろえたり、共通認識を図るよう指導していく。

自由民主党 鈴鹿市議団 森 喜代造 議員

高齢者政策について

(質問) 災害時における高齢者の避難誘導についてどのように取り組んでいるのか。

(答弁) 自然災害には、自らが日頃から防災意識を持ち、非常時に備えることとし、災害が発生した際には、迅速な情報収集と避難行動を取ることが重要である。国が示す「避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指

針」では、「避難行動要支援者」の避難支援を行うこととしていることから、本市では地域の高齢者や障害者などの避難行動要支援者に対し、災害時要援護者台帳への登録を進めている。

災害時要援護者台帳の活用方法については、市内の多くの地域で地域課題として防災対策が取り上げられていることから、今後検討していく。

その他の質問 ○不審者について
○学校教育について